校園名：神戸大学附属小学校

所在地：〒673-0878　兵庫県明石市山下町３番４号　　電話番号：078-912-1642

記載日：平成 28 年　５月　23 日　　記載者：梅本宜嗣　　記載者役職：副校長

校風、おおまかな特色について：

【教育目標】

国際的視野を持ち，未来を切り拓く「グローバルキャリア人」としての基本的な資質を育成する
～自らの未来を，国際的な視野を持って開拓することができる人材を育成することを目指し，その礎となる資質を育成する

「地球規模で持続的な社会を形成する主体者」たる人材の育成を理念としている。

【特色ある取組】

○　グローバルな資質の育成

ア　地域や地球規模のさまざまな現実から問題の所在や自己のあり方を追究し，グローバルな視野に立って判断できる資質・能力を培う

・「環境」「平和」「災害」をテーマにした宿泊活動の実施（４年生以上）

イ　活動する地域の自然や文化に触れる体験を通して，国際的な視野を広めたり深めたりすると共に，人間同士のつながりを高め合う地球市民としての資質や能力を養う

○　多文化理解に向けて

ウ　外国の学校の子どもや神戸大学の留学生などと直接的にふれ合う

エ　オーストラリアのアイアンサイド小学校と親善相互訪問を行うなど国際交流を実体験する

オ　１年生から６年生まで ALT とともに，英語を中心とした外国語や文化に親しむ

カ　海外帰国児童を一般学級に受け入れ相互啓発を行なう（11 名が在籍）

○　異年齢交流の実施

キ　異学年交流活動を積極的に取り入れリーダーシップを備えた人材を育成する

ク　異学年の友だちと活動集団をつくり，学校行事等をつくりだす

○　情報活用の資質の育成

ケ　情報教育を充実させ，ICT を多様に活用した授業を行なう

○　幼小連携の推進

コ　幼稚園・小学校の連携と接続を重視したカリキュラムを構成する

卒業生の活躍状況について：

神戸大学附属住吉小学校，神戸大学附属明石小学校両校を統合再編し，平成 21 年 4 月に開校した歴史の浅い学校であり，第 1 回卒業生がようやく中学 2 年生となったのが現状である。卒業生の活躍はこれから期待されるところである。

前身の附属住吉小学校，附属明石小学校は，平成 26 年 3 月末に閉校を迎えた。師範学校附属としての成立以来，ともに百数十年の歴史を有する学校である。その両校からは，各界で貢献する人材を多く排出してきている。ノーベル賞受賞者や現職の国会議員も存在する。過去には，大正新教育において「分団式動的教育」を提唱した及川平治先生も在職されていた。

勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

開校 8 年目の現時点で，教職員のうち約半数が，周辺地教委との人事交流によるものである。副校長経験者は校長，主幹経験者は教頭クラスで原籍へ帰任している。教諭についても，原籍へ帰任後は，研究主任などの立場に就くことが多い。定期的に現任教員と OB 教員との交流会を開催し，現況を把握している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

○　９年一貫教育課程の開発・実践を核とする幼小一体化

文部科学省「研究開発学校」の指定（平成 25～28 年度）を受け、「グローバルキャリア人の基本的な資質の育成」を目標とする幼小９年間を見通した教育課程の開発・実践に取り組むことにより、教育研究面における幼小一体化を実現している。さらに、教員の人事交流及び初等教育キャンパス構想等により、組織・運営面での幼小一体化も推進しており、“初等教育学校”とでも言うべき初等教育の拠点校を目指している。

○　「神戸大学附属小学校 GCP（Global Challenge Program）

「実践的コミュニケーションを体感する」「異文化理解のさらなる実体験」，そして「多文化共生への眼差しの育成」を育む直接的な体験として，海外交流を実施している。神戸大学本学との連携により，プログラムが充実しつつある。

ア　AUS プログラム

５・６年生児童により，オーストラリア　ブリスベン市にあるアイアンサイド校を訪問。学校交流およびホームステイを行なう。

- ７月 28 日（木）～８月４日（木）
- ５・６年生児童 28 名が参加
- 相手校との相互訪問。29 年度は訪問団を受け入れる
- 英語圏での実践的コミュニケーション

イ　MRS プログラム

５年生児童により，フランス　マルセイユ市を訪れ，ホノレ・ドーミエ高校と学校交流。滞在期間中はホームステイを実施する。

- 10 月９日（日）～10 月 14 日（金）
- ５年生児童 20 名が参加
- 神戸大学国際部，姉妹都市神戸市および在マルセイユ総領事館のバックアップ
- 非英語圏での実践的コミュニケーション
- 国際交流に貢献する人材との出会い

ウ　HOKU プログラム（平成 29 年度から実施予定）

５年生児童により，ハワイ　ホノルルを訪れ，現地小学校と学校交流。滞在期間中はホームステイを実施する。現在，平成 29 年度実施に向けて準備中である。

- 神戸大学のハワイ拠点を活用したプログラム
- 神戸大学米州交流室，富士通 JAIMS のバックアップ
- 英語圏での実践的コミュニケーション
- アメリカ側から語られる平和教育
- 現地先住民との交流による多文化理解

神戸大学の海外拠点を活用した取組は神戸大学の機能強化にも連動している。加えて，神戸大学に新設される学部のGSP（Global Studies Program：在学中に神戸大学生が海外交流を実体験する取組）にも貢献することができる。

地域における存在について：

○　先導的な取組により地域の教育界に貢献する

平成25年度より，4年間にわたって取り組む幼小連携による研究開発では，「初等教育要領の開発」という形で提言を行おうとしている。幼稚園と小学校との接続はどうあるべきなのか，また，幼稚園・小学校という枠組についてはどうあるべきなのか。これらについて私たちは，3つの資質・能力で構成したカリキュラムによる提言を行なおうとしている。教育課程部会の論点整理からも，次期学習指導要領のイメージが出され，「個別の知識や技能（何を知っているか，何ができるか）」「思考力・判断力・表現力等（知っていること・できることをどう使うか）」「学びに向かう力，人間性等（どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか）」の資質を総合的に育むことを眼目にしており，それらとも符合する。

平成28年11月19日（土）には，研究発表会を実施する。

○　実践交流の場として貢献する

日々の取組を発信したり，地域の教員への実践交流の場として活用されたりしていくことを願い，継続的に「夏期教員研修講座」を実施している。神戸市，姫路市，明石市の各教育委員会との共催により開催し，地域の学校の先生方も実践をもちより交流する場である。兵庫県教育委員会で実施している 10 年次研修の指定研修にも位置づいている。参加する現職教員は，神戸市をはじめ，県下14地教委管内におよぶ。

今年度は，7月26日（火）に実施する。神戸市，姫路市，明石市の3市6校から実践が持ち寄られる予定である。

○　県下現職教員の実践的な研修の場としての機能

現在，兵庫県教育委員会，神戸市教育委員会と人事交流に関する協定をもとに，神戸市，芦屋市，伊丹市，西宮市，明石市，高砂市，姫路市から交流教員を迎えた人事構成となっている。一定の在職期間中には，学習実践，研究，校務について実践的な研修を行い，その後原籍へと帰任する。現職教員の教員としての力量向上のために機能している。

附属学校の存在意義、本校の存在意義について：

○　地域の「モデル校」「拠点校」としての機能

教育課程開発を中心とした実践的な教育研究を積み重ねてきている。前身の神戸大学附属明石小学校での研究では，「生活科」や「総合的な学習の時間」新設において，先導的な取組を公開・提供してきた。現在は，幼稚園と小学校を一体としてとらえた「初等教育学校」構想にも寄与する，幼稚園と小学校の一体的な教育活動の展開と運営に資する研究を行なっている。実践に支えられた提言は，現場での教育活動の展開に資するものとして機能していくことになる。

○　県下現職教員の実践的な研修の場としての機能

現在，兵庫県教育委員会，神戸市教育委員会と人事交流に関する協定をもとに，神戸市，芦屋市，伊丹市，西宮市，明石市，高砂市，姫路市から交流教員を迎えた人事構成となっている。一定の在職期間中には，学習実践，研究，校務について実践的な研修を行い，その後原籍へと帰任する。現職教員の教員としての力量向上のために機能している。

○　将来の教育界を担う人材を育成する場としての機能

毎年，神戸大学学生を中心に，多くの教育実習生を受け入れて，指導に当たっている。実習期間中は，「子ども理解」「学習指導や生活指導」「学級経営」「学校の組織・運営」について実践的に学ばせ，現職教員として現場に出た際に必要不可欠な資質と能力を育成することに努めている。

また，神戸大学の「教職実践演習」では，講義を担当し，「教職の使命感や責任感・教育的愛情等」「社会性や対人関係に関する自己認識」などについて，現場の事例を紹介しながら学べるようにしている。

地域には，附属校をもたない大学も存在する。そのような大学の教職実践演習の場としても提供している。